

1 自己評価及び第三者評価結果

自己評価日	平成28年6月23日	第三者評価実施日	平成28年7月12日	公表日	
-------	------------	----------	------------	-----	--

【地域包括支援センター概要(センター記入欄)】

センター名称	四郷・東地域包括支援センター
法人名	清章福祉会
統括責任者名	天野 玉記
管理者名	福永 恭枝
所在地	姫路市御国野町御着283-15

電話	079-252-8009
FAX	079-253-1614
メールまたはホームページ	sigohigasi@kiyosumien.jp
施設までの交通手段	JR御着駅下車 徒歩2分
事業開始年月日	平成25年4月1日

【センターが所在する地域の校区別の人口と高齢者人口割合、特徴・特性(センター記入欄)】

(四郷)7032人 高齢化率27.8% 高齢者が買い物できるような商店やスーパー、コンビニもない。医療機関は整形外科が1か所あるのみで、近隣高齢者の医療よろず相談所のような状況となっている。また、交通の便が悪く高齢者が気軽に使える公共交通機関が少ない。
 (別所)8171人 高齢化率19パーセント 大型スーパー、銀行、病院などかなり充実している。若い所帯が多く世帯間交流は少ない。昔からの住宅街は道幅が狭く、不便。緊急の際不安である。
 (御国野)9078人 高齢化率24.3% JR御着駅、国道2号線があり、交通の便はかなり恵まれている。朝夕は人の流れも多く、図書館、公民館等充実し、文化的にも恵まれている。

【第三者評価で確認した優れている点、工夫点】

統括責任者・管理者を中心に結束し、法人理念の基、目標達成に向けて事業計画を着実に遂行していることを、活動記録・関係資料及びヒアリングを通じて確認できた。特に、毎月1回開かれる長時間のカンファレンスでは、統括責任者を含め全員で事業計画に沿って、ケース検討や諸課題協議、研修等がきめ細かく行われている。全職員は、必要な情報や専門知識を常に共有しながら各職種の専門性を発揮し、関係者とも連携・協働してニーズに即応した支援を目指し、チームとしての立ち位置を確認しつつ活動に取り組んでいる。

【地域包括支援センターが目指している基本的な方針(センター記入欄)】

高齢者が住み慣れた地域で、生き生きと暮らせるように多方面から支援していくことを目指している。
 これまでも包括支援センターの認知度を高めるため工夫してきたが、今後も医療や地域の人々を含めたネットワークをしっかりと構築し、他職種連携の強化を図るためにも知識の向上に努め、よりよい地域づくりを目指したい。

【第三者評価で確認した次のステップに向けて取り組みを期待したい点】

今後ますます少子高齢化が進展する中であって、これまでにセンターが積み重ねてきた貴重な実績である、いきいき百歳体操交流会、サロン、集い、講演会等の機会を有効に活用して、地域の高齢者自身が自らのために行う自助活動や、お互いに支え合い地域の中で行う互助活動の大切さを認識し、改めて自治会・民生委員・事業所・ボランティア等による、ネットワーク構築の取り組みを期待したい。併せて地域支え合い会議及びケアマネジメント力向上会議の、更なる取り組みを期待したい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点(センター記入欄)】

事業の理解や周知を図るため関係機関や地域の皆さんの交流も図ってきた。その結果「包括支援センター」の理解はかなりされていると考える。特にサロン、講演会等の機会をとらえて、成年後見制度、権利擁護事業等の普及に努めており、介護予防普及啓発とともに活動の大きな柱としている。ケアマネの支援についても、相談しやすい関係を作るため研修会の開催や社会資源の情報提供を行うなど関係づくりに力を注いでいる。
 今年度は、よりいっそう「地域」を支援する地域包括ケアの目指す姿に近づけるようアプローチしていきたい。

【備考・その他】

【次のステップに向けて取り組みたい点(センター記入欄)】

第三者評価を受けて、地域包括支援センターとして事業を展開していくうえでポイントとなることを再確認させていただきだけでなく、厚生労働省の進める「地域包括ケアシステム」の構築実現に向けて地域包括支援センターが担うべき役割を具体的にイメージさせて頂いたことが大きな収穫だったと思います。今後は、「地域包括ケアシステム」の目指す姿に少しでも近づけていくために、職員のファシリテーター能力向上のための計画的な研修の提供や、相談マニュアルやリスクマネジメントマニュアル等の整備に取り組み、システムティックなチームアプローチができるようにしていきたいと思っております。